

発表者 城山（阿古） 智子

テーマ 「一人ひとりの多様性を認め合い、個性を生かす教育」

よろしく申し上げます。今日はこのような機会をいただきまして、ありがとうございます。ふだん、大学で教えているので慣れているつもりなのですが、けれども、とても緊張しています。

私は、大学では社会学と現代中国研究を教えています。今、中野区で小学校4年生の男の子1人の母親で、夫も以前は通信社の記者をしていたのですが、10月から北海道大学で教えていまして、単身赴任をしています。ですので、いわゆるワンオペというか、子育てを1人でやっているという状況です。

生まれ育ちは大阪なのですけれども、小学校のときに母親ががんになりまして、その後亡くなったのですけれども、父子家庭で育ったという経験もあります。大阪で大学を出て中国を専攻しまして、その後、香港に留学して、香港大学で教育学の博士号を取りました。教育学といっても私の関心は結構国家というかマクロのレベルの制度構築とそのコミュニティの関わりとか、かなり教えるという技術よりも全体的な制度面を見るような研究だったので、その後、北京の日本大使館で3年間働きまして、そのときに、私は主に農村、中国の中でもいわゆる貧しい地域、そういったところで学校をつくったり、井戸を掘ったり、日本のODAのプロジェクトを担当したり、調査、研究に携わりました。

香港大学にいたときに、エスノグラフィーという手法を学びまして、それは参与観察なのですけれども、博士論文では中国の上海に1年間滞在しまして、学校の教員、担任はできませんけれども、副担任という形でクラスに入らせていただいて、それで子どもたちの様子を観察して、それから、学校の組織の経営の仕方ですとか、国との関係、国と地域の関係というのも見てきました。

ちょうど上海は改革開放政策の中で市場経済化を進めていて、教育が産業としてもかなり発展をしていたところなのですけれども、そういった中で格差、個人の子どもたちの格差もそうですし、学校間の格差も拡大していった、そういう全体的に基準を維持するというのと、それから、個性のある子どもたちを育てるといふこと、それを両立することに悩んでいるところもあったり、世界的に上海というのはとても教育の面では注目されているところなのですけれども、具体的に見ていくといろいろな問題を抱えているということが分かりました。

中野では子育てに関する市民グループですとか、古い建物の保存活動に関わるグループにも参加していますし、小学校では外国人のご家庭を支援する

通訳をやらせていただいたり、わくわく教室を担当したりもしています。

コロナの今の時代、本当に今後何が起こるか分からないと思います。とても予期せぬたくさん問題が生じてくると思うのです。財政ももちろん厳しくなるでしょうし、国際情勢、私は中国をやっていますので、あと、香港のこともやっていますので、日本の置かれている位置というものをしっかり見極めていかないといろいろな問題が起こってくる。国際的にも起こっている。そして、もちろん格差も拡大する。それから、もう1つは、AIと人間社会がどのように共存するかということも模索していかなければいけない時代です。そういった中で複雑化する社会を生き抜く力を育む教育の必要性が問われていると思います。

その中で子どもたちの多様な特徴とニーズを重んじる主体的な学びというのを実践していくにはどうしたらいいか。私は、先ほどご紹介したように、一応大学で教えていますし、研究もしていますので、まず、中野区の実態をしっかりと把握したいです。ですので、学校の現場に、全てを回すことはできないかもしれませんが、特定の先生方、こういうプロジェクトをやってみないと、そういう思いがある方々と一緒に、課題に基づいて研究をしていきたいと思っています。

今生じている、いろいろな新たな問題、少人数クラスに対応するというのはどうしたらいいか、様々なニーズや才能のある子どもたちへの対応をどうしたらいいかというようなことを実験的にやって、見ていきたい。その中で先ほども言いましたように、基本的な学びの環境を保障するという意味での平等と子どもの多様なニーズや特徴に応じた基準を基に考える平等、その両方を保障するための実験的取組の在り方を考えていきたいと思っています。

中野区は、子育て先進区としてアピールしていくということですので、そういったところもアピールしたい。この中のプロセスにおいて、見えにくい貧困のシングル家庭のケアとかネグレクトへの対策、そして、マイノリティへの対応を強化して行って、先進事例を蓄積したいと思っています。

もう1つは、教師が生き生きとできなければ学校側の現場というのはよくありませんので、働き方改革を進めるということです。そして、2つ目は、教育委員、今回は教育委員ということなのですが、私もいろいろ教育委員会を傍聴させていただいたりしたのですが、教育委員会の役割がよく分からないというか、対話、風通しがあまりよくないというか、もっと教育委員会が現場とつながっていく、直接いろいろな声を聞こえるような組織に変わっていくべきだと思うのです。そういうところも実践したいと思っています。

そして3番目は、地域住民、特にシニア層と教師、保護者、子どもたちとの関わりを進めて、地元企業などとも連携していくということが大事ではないかと思っています。

最後に、国際化、デジタル化の加速もしていきたいと考えています。これはICTの取組などもやっていきたいと考えております。以上です。

区長 いろいろ地域でも活動をされているということでしたね。これは何か思いがあって地域で活動されているのですか。

城山(阿古) そうですね。区長ご存じかと思うのですがけれども、私の息子は平和の森小学校に通ってしまして、刑務所の門について、反対する人、賛成する人がいて、いろいろな声があります。私は保存して活用していただきたいという思いがあって、それも学びのいろいろな材料になると思っていますのですけれども。そこですごく感じたのは、いろいろな声を調整するということと、あと対話の重要性です。その中で、中野区が対話を進めると言うておられるのですけれども、例えば、こういった会、区民と対話する集会とかも参加する人がすごく少ないです。やはりもっと参加して、参加するということが当たり前になっていくと主体的に関わるようになってくるのです。学校とか家庭とかコミュニティというのはどんどんつながって、そういう一緒に考える、参加するという場になるべきなのです。そのために私に何ができるかということをいろいろ考えています。

区長 ありがとうございます。もう1点、教師の働き方改革は具体的にはどういうことをやればよいと思っていますか。

城山(阿古) そうですね。物理的に人数が限られていて、その中で苦労されていると思うのですけれども、大阪の大空小学校というところの事例などをこの間、勉強会でこの中野区でもやっていたのですけれども、地域の人たちがとても活発に関わってくださっているのです。私の息子が通っている平和の森小学校も一生懸命地域との連携を強めていらっしゃるのですけれども、慎重になってあまりここは関わらせないようにみたいな感じでとどめておられるところもあります。もっと関われると思うのです。例えば、ちょっとした丸つけとか、そういうことももっと関わっていただく。今、コロナでちょっと難しいのですけれども。

あと、企業なんかと一緒に連携したりもできるでしょうし、そういうところをもっと開いていくというか、あまり怖がらずにいろいろなことを一緒にやっていく。特にシニア層なんかはもっと

貢献したいという人がいらっしゃると思うので、そういうところを一緒にやっていければと思います。

区 長 ありがとうございます。教育委員会はもう少し透明化したほうが良いとおっしゃってましたけれども、やはり地域ともっとオープンな関係でつながれたらいいというのは、私も同じ思いを持っています。

あと、上海に行かれたという話で、平等と競争というこの2つの概念をどうやって、これはバランスだと思うのですが、そこは今、中国、上海ではどううまくやっていたのですか。

城山(阿古) 中国は特にやはりエリートを育てるのが上手で、そこにお金も人も投入するのですが、そうするとできない子はどんどん切り捨てられていく。そして、基準も特に中国は記憶力など、そういう堅い学力で判断してしまうことがあって。でも、中国の中でも上海は、個性を豊かにする教育も頑張ってやっていらして、そういうところは学べるのではないかなど。ですので、基礎学力はしっかりつけた上でいろいろなニーズに合う学びの在り方を追求すべきではないかなど思っています。

区 長 ありがとうございます。お疲れさまでした。